

県内高校生からの

県政に対する提言・質問



新型コロナウイルス感染症の県内での感染急拡大を受け、令和3年度高校生議会の開催は中止としましたが、参加を予定していた高校生から、県政に対する提言等が寄せられました。県担当部局の回答とあわせて、その一部をご紹介します。

✿ ヤングケアラー(※1)への支援について

米子松蔭高等学校 2年 千代田 真歩さん

Q 誰もが平等に希望に向かえる環境を整備するため、教職員・生徒が対象の研修会の開催や、家族への介護の必要性が判断された段階から関係部署や学校が連携、情報共有する早期支援の実施が必要では。

A 支援者の理解促進と対応力向上を図るため、8、9月に行政、教育関係者等を対象に研修用動画の配信を行いました。社会的認知度の向上、早期把握と支援につながるよう、引き続き県民への広報や関係者への研修等を実施するとともに、ヤングケアラー対策会議で関係機関との連携を活かした対策等をさらに検討していきます。

✿ 小・中学生の第三の居場所づくりについて

鳥取東高等学校 3年 藤井 希望さん

Q 子どもが安心でき、家庭と学校の橋渡しとなる「第三の居場所」が必要だが、支援方法や施設運営等がまだ整っていない施設も少なからずあると思われ、運営事業者間の横のつながりも薄いように感じるとの話を聞いた。交流、意見・情報交換の場を整備してほしい。

A 学校でも家庭でもない「第三の居場所」は必要であり、「家庭と学校の橋渡しをする場」という観点での交流の実施も必要と考えます。行政が行っている支援についての情報も提供しながら、子どもの居場所全体で情報交換が行われるよう支援していきます。

✿ 教育を通じた持続可能な社会について

米子北斗高等学校 3年 坂口 太一さん

Q 鳥取県らしい教育を次世代に継続して行っていくためにも、教員の養成は県内の大学で行うべきではないか。鳥取大学に教育学部教員養成課程の復活を求めたい。

A 鳥取県に愛着を持ち、鳥取県の子どものために本気で教壇に立とうという志の高い人を採用していくことはとても大事な視点であると思いますので、いただいたご意見は鳥取大学に伝えていきます。

✿ 鳥取県のグローバル化に伴う人材育成について

青翔開智高等学校 2年 明間 凜太郎さん
2年 藤原 野乃花さん

Q 本県がよりグローバル化するには、グローバル人材を多く育成する必要がある。本県に特化した独自の人材像を描きその育成を明確化する教育計画を立てるとともに、「教育に関する大綱」にその必要性和具体的な教育計画を記載してはどうか。

A 人材育成の必要性等を「鳥取県教育振興基本計画」や「教育に関する大綱」に明記し、取り組んでいるところですが、小中高等学校でのふるさとキャリア教育の充実を基盤として、さらに取組を推進していきたいと考えています。

✿ 「学校におけるSOGI(※2)」及び「県全体としてのSOGIハラスメントへの対策」について

鳥取西高等学校 2年 加賀田 理元さん
2年 太田 結彩さん

Q 本県は他県と比較して、性などの多様性に配慮した制服制度への改善が遅れているように思う。児童、生徒の誰もが自分らしく学校生活を送れるよう、県内すべての学校の制服制度の改善にどのように取り組まれるのか。

A 制服を見直す際には、性的マイノリティに対する配慮だけでなく、様々な視点から幅広く検討していただけるよう、教育委員会や私立学校に話をしたいと考えています。

(※1) ヤングケアラー・・・病気や障がいのある家族の世話や介護を日常的に行っている18歳未満の子ども。

(※2) SOGI・・・Sexual Orientation & Gender Identityの略。性的指向(好きになる性)、性自認(心の性)のこと。